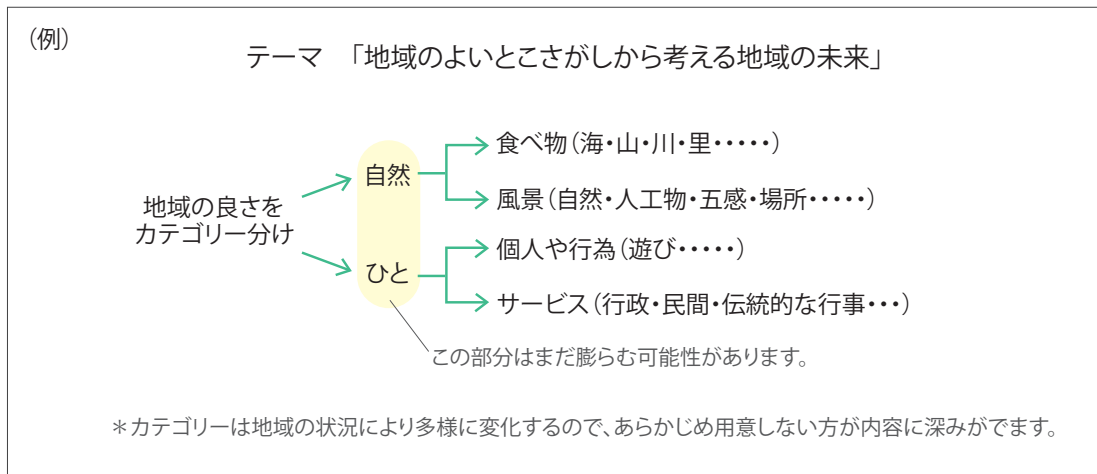


第3段階 実施

基本的な流れはシンプルです。

- 1 プログラムの内容と得られる成果についての説明。
- 2 テーマに応じた話題提供があるとよいが絶対条件ではありません。
- 3 テーマごとに思いつくキーワードを附箋等々に書きだし、模造紙等に貼りだして共有化します。
*参加者の人数等々の条件により、キーワードがなかなか出ないことが予想される場合は、聞き取りを行い、筆記役を用意するなどして対策を立てておく。
- 4 貼りだされた附箋をカテゴリー分け等々により整理し、テーマに対して可視化させる。
- 5 SDGs 目標等との連動を行いたい場合は、ここでアイコン等のカードを用いて貼り付けてみます。



第4段階 考える

実施により得られた情報をどうさばくか、ここからがモノサシづくりの核心です。

カテゴリー分けされたキーワードの共有だけで終わると、参加者はその場での達成感はあるにしても、その後の動きにはつながりません。

書きだして出てきたモノサシ候補をどう使うかまで考えを深める必要があります。

ポイント

地域の課題解決がテーマであれば、キーワードの「よいところの持続」、あるいは「あまりよろしくないところの改善」ここあたりがモノサシづくりのミソとなるでしょう。

モノサシ候補は、第3段階で出たカテゴリーや個別のキーワードから出てくる場合もありますし、「なにがモノサシとなるだろうか?」という問いかけから、新たな視点が生まれることもあります。

第5段階 作り伝える。そして継続させる仕組み

地域や集団をどう変えてゆきたいか?そのためにモノサシがどう使えるのか?

これを整理するためには成果を共有し、地域内あるいは地域外に伝えるための「何か」が必要となります。

今回の事業の結果生まれた例を挙げてみると

- 行政や既存の団体と短～長期計画を作る。
- 問題を解決のための持続可能な社会のしくみを考える場所や組織を作る。
- 地域を理想的な姿に近づけるために・・・課題は何?どうすれば課題を解決できる?そのために何が必要?などを考えるゆるい集まり。
- 絵地図やチラシ、イベント企画などを計画することにより、課題共有を継続する仕組みを作る。

ポイント

この事業のコンセプトは自分たちで動く仕組みを作ることでもあります。

我々の目的はモノサシを作ることが最終目標ではなく、モノサシを作ることを通して地域や集団が何かを動かすきっかけをつくり、関わる人材が生まれるスタートであると考えています。